



● 第10回市民公開講座 骨髄移植を知ろう ～いのちを考える～

今回で第10回となる市民公開講座 骨髄移植を知ろうが、骨髄バンク20周年を記念して次のとおり開催されます。

第1部 骨髄移植を知ろうでは、実際に骨髄移植を受けた患者さんや、ドナーとして協力された本県出身のピアニスト菅野美奈さんの体験談などがあります。

第2部 マザーテレサからのメッセージでは、マザーテレサの姿を追ったドキュメンタリー映画を制作した千葉茂樹監督の講演に続き、「マザーテレサに捧げるメロディ」と題した菅野美奈さんによるピアノ独奏会があります。

参加は無料です。皆さまお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

日時 7月9日(土)13:00～16:10
場所 アウガ5階 AV多機能ホール
青森市新町1-3-7



まろまろ 平成23年度総会

アウガで開催の市民公開講座に引き続き、16時20分から平成23年度の総会を開催します。会報と一緒にお送りした総会資料をご持参のうえ、ご出席ください。

また、恒例の懇親会は青森市古川のサッポロビアレストラン910において、18時から。参加の有無は同封のハガキでお知らせください。

● ロビーチェアを寄贈しました —募金にご協力ありがとうございました—

県立中央病院8階のデイルーム(テレビのある談話室)に、「まろまろ有志一同」からロビーチェア(長いす)を寄贈しました。

これは、会員の奈良仁さんの発案で昨年7月の総会から募金を始めたもので、目標6万円をめざして、まろまろのお茶会や行事のつど募金箱を設置し、皆様の善意をお願いしてきたものです。

募金開始から約1年、募金総額が56,073円になったところで、デイルームに適したロビーチェアを手配して、6月10日に寄贈することができました。

贈呈の際には、病棟スタッフの皆さんも立ち会ってくださり、「とても座りやすい」と感謝の言葉をいただきました。

募金総額 56,073円
ロビーチェア 55,000円(定価77,000円)
差引 1,073円

残額はまろまろに寄付したいと思います。

たくさんの会員や入院中の患者さんから
ご寄付をいただきました。
ありがとうございました。m(_)_m



二人で座ると、
こんな感じ。

いすの手配をした(うれしそうな♪)佐藤さんと病棟スタッフの皆さん

●情報・相談投稿コーナー まろまるのもろもろルーム

●がんばってます 青森県骨髄バンク登録協力会

平成17年から活動している青森県骨髄バンク登録協力会。当時最下位だった青森県の骨髄バンクドナー登録者数を何とかしたいと考え、現在協力会代表である前田基行氏が、バンクのボランティア説明員として活動を始めたのがはじまりです。

その後、協力会の会員は約20人にまで増え、毎週土日には日赤の献血車とタイアップしてドナー登録会を開催し、骨髄バンクの普及とドナー登録のお手伝いをしています。

平成22年度(4～3月)の実績は、登録会を44回開催し、計469名の方にドナー登録をしていただきました。その甲斐もあって、県内の登録者数は着実に伸び、4月末現在では3,383人、全国第31位になっています。

協力会には、まろまるメンバーも10人ほど参加しており、佐藤孝治さんが毎回中心となって登録会を運営しています。

関心がお有りの方は佐藤さんまでお電話を。(090-5832-3531)
今年のボランティア説明員研修会は
6月19日(日)13時～ 日赤青森献血ルーム



ドナー登録会で説明をする佐藤さん

骨髄バンク情報 (H23年4月末現在)

	全国	青森県
患者登録者数	1,446人	9人
ドナー登録者数	381,470人	3,383人
対象人口千人あたり	6.35人	5.29人(31位)

—資料：(財)骨髄移植推進財団—



投稿

◆会員の小笠原佳子さん◆

「6年前の今日も、こんな青空だったなあ」と八戸行きの特急に乗りながら、どこまでも広がる青空を見上げていた。

6年前のその日、無菌室のベットに横になり青空を見上げながら、ひたすら骨髄採取をしているドナーさんの無事を願い、私の移植に携わってくれているたくさんの人に感謝していた。

その日の夜、ドナーさんから命の贈り物が届き、私のなかに「ありがとう」がいっぱいの新しい命が吹き込まれた。

あれから6年。きつと言わなければ患者だったとはわからない姿になり、その日も普通に、元気に出張をこなしていた。

生かされているありがたさ、生きている喜びはいつも私を元気にしてくれている。

12月4日。ついに新幹線が青森までやってきた。

今日もきっとどこかでドナーさんからの骨髄液が患者さんのもとへ向かっているだろう。

青森と東京。実際の距離は変わらなくても、時間が短縮されると、骨髄移植を待つ患者さんとドナーさんの距離が近くなるような気がする。

青森で骨髄移植を待っている患者さん、そして青森のドナーさんからの骨髄提供をどこかで待っている患者さんとの距離が縮まるような気がして、嬉しくなる。

新青森の出発とともに、患者さんの笑顔が増えますように。

※ 昨年の暮れにいただいた投稿です。掲載が遅れておりましたが、新幹線も震災から復旧し通常運行に戻りつつありますので、今回ご紹介させていただきます。

お茶会に参加しませんか

毎月第4土曜日に談話会を開いています。
会員でない方も大歓迎です。

◇開催日 毎月第4土曜日 14:00~16:00

◇場所 県立中央病院 8階病棟食堂

◆情報、企画を募集しています。

会報に載せたい記事や情報はありますか？
おすすめの本やレシピ。ちょっとした裏技。相談ごと。
こんなことをしてみたいというアイデア。

何でも結構です。

随時募集中！！ F A X : 017-726-8083

E-mail : fwhy2780@nifty.com

◇編集後記◇ -5歳の誕生日に-

がん体験者には、「病気になって、それまでの社会や家庭における役割を失った中から、身近な患者などにできることをして、また外の世界に目を広げて貢献していきたい。」という性向がみられることがあるらしい。ある本には「愛他主義」と書いてあった。

6年前、県立中央病院の久保先生や松林班長さんの患者会立ち上げの動きに呼応し、何人かの患者・家族とともに協力を始めたのは、そういう心の動きだったのかも知れない。

幾度にも及ぶ検討会の末、ようやく「まるまる」が立ち上がったのが、平成18年7月。

手探りで始めた談話会。毎月、第4土曜日の来るのが早かった。「何かをやらなければ」、「でも何をすればよいか」。どんどん新会員が増えていったあの頃、毎回、全員の自己紹介から始まった。レジュメを準備して、「会議のような」、「勉強会のような」だった草創の頃。

そのうち「マンネリ」という壁にもぶつかり、「スタイルが確立されたのだ」と開き直ったのが3年目。まるまるの設立から5年が経過し、会のイベントもすっかり恒例となり定着してきた。

個人としても、退院後、時を経るに従い死と常に向き合っているような緊張感は弱まり、闘病中の記憶も薄れてきていると感じる。それでも、ふと、思うときがある。生かしていただいた感謝を、あとから来る患者さんたちにお返ししたいと思った。がんになったけど、移植を受けたけど、生きている。救出されたこの存在を見てもらうだけで、勇気を与えることができはしないか？患者本人以上に衝撃を受けているご家族にも。

5歳を迎え、道に迷わずに歩けるようになったまるまる。これから、また次のステージに向けて歩き出す。持続できる会であるためには、若いメンバーの力も大切になってくる。そして、やはり会員のためのまるまるであるばかりでなく、いま病気と出会ったばかりの患者さんたちに頼りにされる患者・家族会であることが重要なのではないか。「血液疾患と歩む患者・家族の会まるまる」の5歳の誕生日にあたり、そう想いを馳せた。

(山本俊二)



まるまる会報メール配信はこちらから

fwhy2780@nifty.com に「メール配信希望」とメールしてください。(携帯電話は不可)
会報は県病HPからもダウンロードできます。

血液疾患と歩む患者・家族の会 まろまる

<事務局連絡先> 青森県立中央病院 血液内科 外来
TEL 017-726-8141 FAX 017-726-8083
〒030-8553 青森県青森市東造道2-1-1



県病HP <http://www.aomori-kenbyo.jp/ketsueki>
ブログ <http://maromaroaomori.cocolog-nifty.com>
Twitter http://twitter.com/maromaro_aomori

